

原 著

## 動物介在ケア活動の必要性に関する調査研究

——これからの動物介在活動や動物介在療法活動の意義——

成田琢郎\*・木山真大\*・川上智子\*・崔 溟洛\*・早崎峯夫\*

〔受付：2000年10月30日〕

ORIGINAL ARTICLE

### A SURVEY OF PUBLIC OPINION ON THE ACTUAL CONDITION AND THE REQUIREMENT FOR ANIMAL ASSISTED RELAXATION ACTIVITY : THE SIGNIFICANCE OF FUTURE ANIMAL ASSISTED ACTIVITY (AAA) AND ANIMAL ASSISTED THERAPY (AAT)

Takuroh NARITA\*, Masahiro KIYAMA, Tomoko KAWAKAMI,  
Hyoung-Rak CHOI, and Mineo HAYASAKI

*Veterinary Clinical Center, School of Veterinary Medicine, Yamaguchi  
University, 1677-1, Yoshida, Yamaguchi-shi 753-8515, Japan*

〔Received for publication : October 30, 2000〕

The questionnaires were sent out to 84 veterinary clinics, and 792 public homes and services for the aged and/or the handicapped and day-care centers for the elderly in Yamaguchi Prefecture. Their answers indicated that many veterinarians, as well as administrators, managers and instructors of the homes and services, have not been well exposed to the concept of Animal Assisted Activity (AAA) and Animal Assisted Therapy (AAT). They also indicated that many homes and services wish to include AAA as a part of their daily activities for their dwellers and clients if it is safe and inexpensive. In conclusion, it can be said that training veterinarians, medical doctors, and instructors is necessary, to lead such activities, as specialists of AAA and AAT.

はじめに

動物介在ケア活動とはいっさいの病気を持たず健康で性格のおとなしい犬や猫、あるいは兔やその他の小動物などを用いて、特別養護老人ホームや養護老人ホームあるいは知的障害者施設などを訪問して入居者の方々に、動物に触れ、話し掛け、楽しいひと時を持ってもらうことで心をリラックスしてもらう癒しのための活動を指す。施設管理者側と十分に準備のための打ち合わせをした上でこのような活動を行うことによって、たとえばボケが軽くなったとか、たとえば自閉症児童が喋るようになり心を開くようになった、などといった活動効果が多く報告されている。このような事実から、近年こういったボランティア活動が全国的に広く受け入れられるようになり、東京や大阪など大都市では欧米のそれに匹敵するほどの活発さとレベルの高さを持つほどであり、10年、20年と継続して活動しているボランティアグループも少なくない。

しかしながら、山口県での取り組みはいまだ不十分で、施設側の要望がどのくらいあるのかもまだよく分かっていない現状にある。

\* 山口大学農学部家畜病院研究室 〒753-8515山口市吉田1677-1

今回の研究に先立って行ったわれわれの予備調査によると山口県ではこのようなボランティア活動は1団体を確認できた以外、どうやら皆無のようであった。しかし、獣医師の協力があれば訪問活動を望んでいる施設は少なくないものと考えられた。せっかく獣医学科を持つ山口大学が在りながら、県下の実状が把握されていないことから、この機会に広く意識調査をして将来における動物介在ケア活動の定着を図るため、県下における動物介在ケア活動への現状と要望の実状について調査・分析する。

## 材料と方法

### 1. 研究計画

この研究は平成14年度の1年間をかけて行われた。計画は、アンケート質問事項の作成、アンケート調査および聞き取り調査の実施、および蒐集データの分析から構成されている。

質問事項：獣医師に対しては、ボランティア活動への理解度・参加意欲度・活動修得度など奉仕活動をする側の意識の実状を明らかにし、いっぽう、各施設に対しては、動物介在ケア活動に対する理解度、訪問活動への要望度、継続訪問への期待度など活動の対象となる各施設側の意識の実状を明らかにすることを目的に質問事項を設計した。

調査方法：アンケート調査（表1）と聞き取り調査からなる。アンケート調査は、アンケート記入用紙に返信用封筒を同封して、山口県内の獣医師と施設に郵送した。聞き取り調査は、ボランティア活動家（獣医師、医師）と特別養護老人ホーム管理者を訪問して、インタビュー形式で直接意見を聴いた。

獣医師へのアンケート調査は、山口県獣医師会会員の獣医師で、小動物（犬や猫など）診療を専門とする獣医科病院の院長で、無作為に抽出した84名に調査用紙を送付した。

各施設へのアンケート調査は、山口県保健福祉施設の名簿に記載の養護老人ホーム83施設、経費老人ホーム26施設、有料老人ホーム4施設、老人福祉センター26施設、老人休養ホーム3施設、老人福祉施設付設作業所9施設、デイサービスセンター149施設、在宅介護支援センター139施設、痴呆老人グループホーム27施設、高齢者生活福祉センター8施設、愛護老人保健施設55施設、介護療養型医療施設82施設、訪問看護ステーション74施設、知的障害者グループホーム25施設、心身障害児デイケアハウス23施設、心身障害児作業施設41施設、地域交流ホーム18施設（「保健福祉施設等名簿」平成13年5月1日現在、山口県健康福祉部厚政課編集）の792施設を対象に調査用紙を送付した。

聞き取り調査は、この活動の獣医学領域における先駆者であり現在もボランティアグループの責任者として活発に動物介在活動を続けている柴内裕子獣医師（東京都港区赤坂動物病院院長、元（社）日本動物福祉協会会長）と山口県内にて動物介在療法の活用に積極的に取り組んでいる河村康明医師（山口県光市河村循

環器神経内科病院院長）、および動物介在活動ボランティアグループを受け入れて動物介在活動の効果を積極的に活用している浴風会第二南陽園（特別養護老人ホーム、東京都杉並区）とアイユウの苑（特別養護老人ホーム、山口県下関市）を訪問し、動物介在ケア活動の実施側と受け入れ側のこの活動に対する実状や要望について詳細にインタビュー調査を行った。

## 成績

アンケート調査：詳細は表2、3に示した。

獣医師に対するアンケートの回収率は45.2%（38件）であった。このうち、AAA（Animal Assisted Activity、動物介在活動）とAAT（Animal Assisted Therapy、動物介在療法）に関する認識は6割程度であった。また、この活動に興味を持つ方は7割であったが実際に行いたいと考えている方は4割程度であった。行ってみたくて思わない方の理由は時間がないからという回答が多く見られたが、時間があれば行いたいと答えた方も多く見られた。この活動を行った経験のある方は5%にとどまった。このことから、獣医師は活動に対する知識があり、衛生面や安全面での不安は少ないものの「実際に行いたいとは思わない」という理由の多くは「時間が取れない」というものであった。しかし、動物介在活動の推進者として獣医師は最も適した立場にあるということができ、したがって、獣医師には動物介在活動の重要性及び社会への認知を高める役割が求められるものと考えられた。そのためにも大学教育における意識改革が必要と考えられた（表2）。

施設に対するアンケート回収率は52.6%（417件）であった。施設の職員の方はいわゆるアニマルセラピーについての関心は高かったが、AAAとAATという言葉の正確な意味はあまり浸透していなかった。実際に行いたいと回答した施設は約半数にのぼり、犬、猫、兔を使いたいとする答えが多数みられた。また、不安点としては、病気の感染や活動後の動物の毛の処理をあげる施設が多かった。実際に行いたいとは思わないと回答した施設は、病気の感染への不安が半数を占め、逆にその不安が解決すれば行ってみたくて思わないという答えも多くみられた。行った経験がある施設（または方）からは動物と触れ合った効果として、共通の話題が増え精神的に安定した、と答えた方が半数を超えた。これらの施設では実際には犬が多く使われていた。そして、9割近くの施設では、今後もこの活動を続けていきたい、と考えていることが明らかとなった。要約すると

1. 動物介在活動を理解している人が少ない, 2. 知識不足による衛生面, 安全面に対する不安が多い, 3. そのいっぽうで実際の活動を見学することで不安の多くが払拭される, ということであった(表3).

柴内獣医師へのインタビューでは, この活動の問題点について重点的に質問した. その結果, 活動の賛同者を増やして活動の量的普及を図ることは無責任な活動実態を発生させることから, 活動に普及を考えるとときにはグループのリーダーの資格と資質が厳しく求められるため, 情熱さえあれば誰でもリーダーになれるものではないことが指摘された. しかし, リーダーには動物介在活動に十分な勉強と訓練あるいは経験を積んだ獣医師が適任なので, 将来この活動の専門家(リーダー)を養成する上で, 動物のしつけ訓練法の教育, 動物行動学や動物栄養学の教育が獣医大学の教育カリキュラムに取り込まれることが重要であるが, この点日本では欧米に比べて大変遅れていることが指摘された. この活動の実施には, 受け入れ施設の不安点である, 不潔, アレルギー, 病気の感染, 咬傷事故, 引っ掻き事故などへの不安解消にまず努める必要があり, 獣医学的に健康な動物を使用していることへの十分な説明と事前に既存の動物介在活動を実施している現場を見学してもらうことで, 不安をかなり払拭してもらえることが経験談と共に指摘された. さらに, 受け入れ施設側との間で, 活動に関連して発生する可能性のある問題点に関する双方の責任の所在を明確にした覚書を取り交わすことが不可欠であり, 逆に, 責任のとれない活動内容はしてはならないことが重要であることが指摘された.

河村医師は現在, AAAを取り入れた「痴呆対応型共同介護」の計画を進めているが, 問題点及び不安点として, 動物による怪我や感染症あるいはアレルギーの発生, 実施に適した場所の選定, 共同実施者(獣医師あるいは訓練士などの専門家, 理学療法士, 心理療法士など)の参加, 動物の嫌いな入居者(患者)への配慮と対応, 動物の死が入居者へ与える心理的影響, 活動に使用する動物の適性の問題(幼犬かしつけされた成犬が適当)などが指摘された.

いっぽう, 受け入れ側として, 浴風会第二南陽園とアイユウの苑はともに, この活動の受け入れ当初は, 動物からの病気の感染に対する不安や費用に対する不安を持ったが, 病気の感染に関しては既存に活動を見学することで, 不安が払拭されたこと, 費用も動物が床で足を滑らすのを防ぐために人工芝を購入したことを除けば, ほとんどかかっていないとのことであった. さらに, 活動効果として, 入居者の間での共通の話題が増えたこと, それに伴って精神的な安定度が向上したこと, などが指摘された.

## 考 察

経済的不安定を背景に, わが国は長いストレス社会のトンネルを抜けきらず, 年々ますますそのストレスが人心を荒廃させていることは, 自殺者の増加, 犯罪の凶悪化, 犯罪者の若齢化, 家庭内暴力の潜在的拡大化などから容易に推察されるところである.

このような社会不安を背景に, また人口の高齢化を背景に, 近年全国的に動物介在ケア・ボランティア活動が年々盛んになってきている. 動物介在ケア活動とは動物に触れ, 話し掛け, 楽しいひと時を持ってもらうことで心の癒しの活動を指す. 心の癒しの活動としては, これまでも「敬老の日」や「動物愛護デイ」に見るように, 長年の間にその情操的精神は人びとの心に広く定着している. しかし, それらの活動はややもすれば, 形式的で, その日限りのもので終わりがちであることも否めない.

ストレスの少ない社会を形成するために真に必要なことは, 日ごろより, 人をいたわり動物を命あるものとして愛しむ日常的な精神の醸成に他ならない. このことのために, 定期的にかつ頻繁に, 言い換えれば日常的で継続的な活動の実施こそが望まれている. しかしそれにもかかわらず, 動物介在ケア活動がなかなか人々に広く受け入れられていないのが現状である.

その原因には動物を介在させることに対する多くの誤解があることは否めない. その誤解は主に, 動物への不潔感や被毛によるアレルギーへの不安や咬傷あるいは引っ掻き事故への不安である. したがって, この動物介在ケア活動には, 衛生的見地から安心して触れたり抱いたりできる健康な動物で, かつ性格が温厚かつ従順で人に触れてもらいことをむしろ楽しいことと感じているようなやさしくかつ人を信頼する性格に育てられた動物を選ぶことが, この活動を主宰する側にとって, 最も重要な要因になっている. 実際, 大都市部(京浜, 京葉, 阪神, など)だけでなく, 長野県や福岡県でも, 動物介在ケア活動は活動の趣旨を深く理解しかつ賛同する獣医師と動物飼育経験の豊富な飼い主の双方によるボランティア精神によって支えられていて, この活動が広く人々の間に浸透していくために, 常に, 動物への誤解と偏見の解消に努力が注がれている.

「ヒューマン アニマル ボンド」という言葉をご存知だろうか. 「人と動物の絆」と訳される. このコンセプトは, 知っている人は知っているが知らない人は知らないというのが現状であろう.

「人と動物の絆」学会という有名な国際学会があり, 定期的に世界各地を開催地と定めて開催され, 毎回多くの参加者を集めている大変盛況で活発な学会である. すなわち, われわれの宇宙船地球号における人間と動物の共存のあり方が世界規模で研究されているということである. この学会が目指すものは, 人と動物がお

互いを必要な存在として、共に伴侶として助け合って生き生きと生涯を共にするための、より望ましい在り方を科学的に研究しかつ実現させていくことにある。わが国においても、医師、獣医師、動物愛護団体、ボランティア団体の関係者により、活発に研究もされ実行もされていて、かなりの成果をあげている。

このように「人と動物の絆」というコンセプトは、人と動物は「お互いさま」という考えのもとに成り立っていて、単なる動物好きの動物愛護とは似て非なるものである。しかし残念ながら、一般には、まだまだ誤解が多く、社会的には、奉仕活動精神の崇高性が過剰に強調されるあまり科学的な対応はなにか冷徹なものとなりに捉えられてしまい、つきつまるどころ動物好きと動物嫌いの2局面で判断が下されるところに帰結してしまうことが少なくない。共同住宅におけるペット排除論がその典型的な一つであり、この場合のように低いレベルの話に終始してしまう。

一般の人々に正しい認識がなかなか浸透しないのであるが、たとえば、動物を介在として施設を訪問して入居者を慰問する活動では「活動に関わるボランティア（人）と動物はその資質や性格が厳しく選別されなければならない」ことや、動物を介在させて心の治療を行う動物介在療法では「障害者乗馬と乗馬療法は全く別のものである」ことの認識、さらには訪問活動や動物介在医療を受ける側（患者さん、ご老人、あるいは幼児達）に対してもまた活用される動物にとっても「苦痛や強制を伴うやり方はいかなる方法であっても

マイナス効果となる」といった基本的原則の認識、そして重要なことは、活用される動物は心身ともに正常で健康な個体を提供するために獣医師の協力は不可欠であることと、活動内容が少しでも医療行為に触れるならば医師の指導のもとで行わなければならない、といった“常識”が医師、獣医師のなかでさえ浸透度は必ずしも高いとはいえず、ましてや一般にはなかなか広く認識されていないのが現状である。

とはいえ、都市部が中心であるが、動物愛護・動物福祉・動物虐待の定義と今後の課題への取り組み、あるいは盲導犬・聴導犬・介助犬などの社会参加の問題、伴侶動物と人獣共通感染症の問題、動物介在療法に適した動物（種類や個体の資質、多くは犬）の選別基準の問題などが精力的に研究され、ボランティアグループを組織して活発な実地活動が行われたり、頻繁に研究発表や講演会が開催されて、人々への啓蒙活動が行われている。

この方面の先進国である欧米では、家畜の中で伴侶動物になり得る動物（犬、猫、馬を中心に）の社会的権利というものは、動物愛護と動物福祉の観点から、すでに法律や規則の中に当然のこととして組み込まれている。このことに鑑みれば、日本でも法律が部分的に整いはじめたのではあるが、近い将来かならずや動物介在活動と動物介在療法が市民権を得て、動物行政や医療行政の不可欠な市民要望事項となるものと考えられる。

表1 アンケート項目の実際

1. 動物介在療法に関するアンケート調査  
＜獣医師用アンケート用紙＞

## 記入にあたって

1. この調査票は無記名で、調査以外の目的に使用されることは絶対にありません。2. 回答は指示に従って、当てはまる番号に○をつけてください。※「その他」を選ばれた場合は、その内容を( )内に記入してください。「自由記入欄」についてもできるだけお書きください。3. 記入して頂いた調査用紙は同封の封筒に入れて、10月6日までにご返送ください。

## [全員にお聞きします]

- ① いわゆる『アニマルセラピー』をご存知ですか？  
1. はい 2. いいえ
- ② AAA(Animal Assisted Activity)またはAAT(Animal Assisted Therapy)という言葉をご存知ですか？  
1. はい 2. いいえ
- ③ 山口県内で『アニマルセラピー』を行っている所をご存知ですか？ 1. はい 2. いいえ
- ④ 『アニマルセラピー』に興味・関心はありますか？  
1. はい 2. いいえ
- ⑤ 『アニマルセラピー』を行ってみたいと思いますか？  
1. はい 2. いいえ 3. すでに行っている、行った経験がある。
- ⑥ 犬猫ロボットによるセラピーについてどう思いますか？  
1. 効果があると思う 2. 効果はないと思う  
3. わからない

※設問⑤で、1と答えた方は2ページ前半を、2と答えた方は2ページ後半を、3と答えた方は3ページをお答え下さい。

## [『アニマルセラピー』を行ってみたいと答えた方にお聞きします]

- ① どのような動物で行ってみたいですか？  
(複数回答可)  
1. 犬 2. 猫 3. うさぎ 4. ハムスター  
5. インコ 6. 金魚 7. モルモット 8. 牛  
9. 馬 10. イルカ 11. その他( )
- ② 『アニマルセラピー』にどんなことを期待されますか？(複数回答可)  
1. 具体的な体調の改善 2. レクリエーションとしての楽しみ 3. 精神的な安らぎ 4. その他( )
- ③ 『アニマルセラピー』に対する不安点は何ですか？  
(複数回答可)  
1. 不潔 2. アレルギー 3. 病気の感染  
4. 場所の確保 5. 費用 6. 動物の毛などの後処理 7. その他( )
- ④ どのくらいの頻度で行うのが理想ですか？  
1. 毎日 2. 週一度くらい 3. 月一度くらい  
4. その他( )
- ⑤ どのような場所で行うのが理想ですか？  
(複数回答可)  
1. ホールのような広めの場所 2. 個別の部屋  
3. 屋外 4. その他( )
- ⑥ 活動時間の理想はありますか？  
1. 30分以内 2. 30分～1時間 3. 1時間～2時間  
4. 2時間以上

## [『アニマルセラピー』をしたくないと答えた方にお聞きします]

- ① それはどうしてですか？(複数回答可)  
1. 不潔感を感じるから 2. アレルギーがあるから  
3. 病気の感染が不安だから 4. 興味がないから  
5. その他( )

- ② 次の中で療法として興味があるものを選んでください。(複数回答可)  
1. アロマセラピー 2. 音楽療法 3. 園芸療法  
4. 森林療法 5. その他( )
- ③ 「ここを改善できれば『アニマルセラピー』をしてみたい」ということはありますか？  
1. はい  
a. 費用の問題がはっきりすれば b. 広い場所があれば  
c. 十分な時間があれば d. 嫌いな動物でなければ  
e. 安全だと分かれば f. その他
2. いいえ

## [『アニマルセラピー』の経験がある方にお聞きします]

- ① どんな効果が見られましたか？(複数回答可)  
1. 具体的な体調の改善(例えば )  
2. 精神的に安定した 3. 共通の話題が増えた  
4. 特に無かった 5. その他( )
- ② デメリットは見られましたか？  
1. デメリットは無かった 2. 動物が苦手な人が多かった  
3. 体調が悪くなった 4. 精神的に不安定になった  
5. その他( )
- ③ 動物好きの人の割合はどのくらいでしたか？  
全体の( )%くらい
- ④ 頻度としてはどのくらいでしたか？  
1. 毎日 2. 週1回 3. 月1回  
4. その他( )
- ⑤ 活動時間はどれくらいでしたか？  
1. 30分以内 2. 30分～1時間 3. 1時間～2時間  
4. 2時間以上
- ⑥ どんな場所で行いましたか？  
1. 施設内の屋内 2. 施設内の屋外 3. 施設外の屋内  
4. 施設外の屋外 5. その他( )
- ⑦ どんな場所で行うのが理想ですか？  
1. 施設内の屋内 2. 施設内の屋外 3. 施設外の屋内  
4. 施設外の屋外 5. その他( )
- ⑧ どんな動物を使いましたか？(複数回答可)  
1. 犬 2. 猫 3. ハムスター 4. モルモット  
5. 鳥 6. 亀 7. 金魚 8. その他( )
- ⑨ どんな動物を使うのが理想ですか？(複数回答可)  
1. 犬 2. 猫 3. ハムスター 4. モルモット  
5. 鳥 6. 亀 7. 金魚 8. 牛 9. 馬  
10. イルカ 11. その他( )
- ⑩ 実際に行ってみて改善したほうがよいところがありましたか？(複数回答可)  
1. 動物の数を増やしたい 2. 動物種を増やしたい  
3. 時間を延ばしたい 4. その他( ) 5. 特になし
- ⑪ これからこの活動を続けていきたいですか？あるいはまた行ってみたいですか？  
1. はい 2. いいえ

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2. 動物介在療法に関するアンケート調査  
 <施設用アンケート用紙>

記入にあたって

1. この調査票は無記名で、調査以外の目的に使用されることは絶対にありません。2. 回答は指示に従って、当てはまる番号に○をつけてください。※「その他」を選ばれた場合は、その内容を( )内に記入してください。「自由記入欄」についてもできるだけお書きください。3. 記入して頂いた調査用紙は同封の封筒に入れて、10月6日までにご返送ください。

[全員にお聞きします]

- ② いわゆる『アニマルセラピー』を知っていましたか？  
 1. はい 2. いいえ
- ③ AAA(動物介在活動)またはAAT(動物介在療法)という言葉を知っていましたか？  
 1. はい 2. いいえ
- ④ 山口県内で『アニマルセラピー』を行っている所をご存知ですか？  
 1. はい 2. いいえ
- ⑤ 『アニマルセラピー』に興味・関心はありますか？  
 1. はい 2. いいえ
- ⑥ 『アニマルセラピー』を行ってみたいと思いますか？  
 1. はい 2. いいえ 3. すでに行っている、行った経験がある。
- ⑦ 施設に『アニマルセラピー』を行える場所がありますか？  
 1. 大きなホールがある 2. 広い庭がある  
 3. その他( ) 4. いいえ
- ⑧ 動物アレルギーを持っておられる方がいますか？  
 1. はい(全体の %位) 2. いいえ  
 3. わからない
- ⑨ 人畜共通感染症について知っていますか？  
 1. はい 2. いいえ
- ⑩ 犬猫ロボットによるセラピーについてどう思いますか？  
 1. 効果があると思う 2. 効果はないと思う  
 3. わからない

※設問⑤で、1と答えた方は2ページ前半を、2と答えた方は2ページ後半を、3と答えた方は3ページをお答え下さい。

[『アニマルセラピー』を行ってみたいと答えた方にお聞きします]

- ② どのような動物で行ってみたいですか？(複数回答可)  
 1. 犬 2. 猫 3. うさぎ 4. ハムスター  
 5. インコ 6. 金魚 7. モルモット 8. 牛  
 9. 馬 10. イルカ 11. その他( )
- ③ 『アニマルセラピー』にどんなことを期待されますか？(複数回答可)  
 1. 具体的な体調の改善 2. レクリエーションとしての楽しみ 3. 精神的な安らぎ  
 4. その他( )
- ④ 『アニマルセラピー』に対する不安点は何ですか？(複数回答可)  
 1. 不潔 2. アレルギー 3. 病気の感染  
 4. 場所の確保 5. 費用 6. 動物の毛などの後処理 7. その他( )
- ⑤ どのくらいの頻度で行うのが理想ですか？  
 1. 毎日 2. 週一度くらい 3. 月一度くらい  
 4. その他( )
- ⑥ どのような場所で行うのが理想ですか？(複数回答可)  
 1. ホールのような広めの場所 2. 個別の部屋  
 3. 屋外 4. その他( )

- ⑦ 活動時間の理想はありますか？  
 1. 30分以内 2. 30分～1時間  
 3. 1時間～2時間 4. 2時間以上

[『アニマルセラピー』をしたくないとお答えした方にお聞きします]

- ⑩ それはどうしてですか？(複数回答可)  
 1. 不潔だから 2. 動物が苦手だから  
 3. アレルギーがあるから 4. 病気の感染が不安だから 5. その他( )
- ⑪ 次の中で療法として興味があるものを選んでください。(複数回答可)  
 1. アロマセラピー 2. 音楽療法 3. 園芸療法  
 4. 森林療法 5. その他( )
- ③ 「ここを改善できれば『アニマルセラピー』をしてみたい」ということはありますか？  
 1. はい  
 a. 費用の問題がはっきりすれば b. 広い場所があれば c. 十分な時間があれば  
 d. 嫌いな動物でなければ e. 安全だと分かれば f. その他( )  
 2. いいえ

[『アニマルセラピー』の経験がある方にお聞きします]

- ① どんな効果が見られましたか？(複数回答可)  
 1. 具体的な体調の改善(例えば )  
 2. 精神的に安定した 3. 共通の話題が増えた  
 4. 特に無かった 5. その他( )
- ② デメリットはありましたか？  
 1. デメリットは無かった 2. 動物が苦手な人が多かった 3. 体調が悪くなった 4. 精神的に不安定になった 5. その他( )
- ③ 動物好きの人の割合はどのくらいでしたか？  
 全体の( )%くらい
- ④ 頻度としてはどのくらいでしたか？  
 1. 毎日 2. 週1回 3. 月1回  
 4. その他( )
- ⑤ 活動時間はどれくらいでしたか？  
 1. 30分以内 2. 30分～1時間 3. 1時間～2時間 4. 2時間以上
- ⑥ どのような場所で行いましたか？  
 1. 施設内の屋内 2. 施設内の屋外 3. 施設外の屋内 4. 施設外の屋外  
 5. その他( )
- ⑦ どのような場所で行うのが理想ですか？  
 1. 施設内の屋内 2. 施設内の屋外 3. 施設外の屋内 4. 施設外の屋外  
 5. その他( )
- ⑧ どのような動物を使いましたか？(複数回答可)  
 1. 犬 2. 猫 3. ハムスター 4. モルモット  
 5. 鳥 6. 亀 7. 金魚  
 8. その他( )
- ⑨ どのような動物を使うのが理想ですか？(複数回答可)  
 1. 犬 2. 猫 3. ハムスター 4. モルモット  
 5. 鳥 6. 亀 7. 金魚 8. 牛 9. 馬  
 10. イルカ 11. その他( )
- ⑩ 実際に行ってみて改善したほうがよいところがありましたか？(複数回答可)  
 1. 動物の数を増やしたい 2. 動物種を増やしたい 3. 時間を延ばしたい  
 4. その他( ) 5. 特になし
- ⑪ これからこの活動を続けていきたいですか？あるいはまた行いたいですか？  
 1. はい 2. いいえ

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

表2 獣医師用アンケートの結果

[全員にお聞きします]

- ① いわゆる『アニマルセラピー』をご存知ですか？  
はい 38 100% いいえ 0 0%
- ② AAA(Animal Assisted Activity)またはAAT(Animal Assisted Therapy)という言葉をご存知ですか？  
はい 24 63.2% いいえ 14 36.8%
- ③ 山口県内で『アニマルセラピー』を行っている所をご存知ですか？  
はい 8 21.1% いいえ 29 76.3%
- ④ 『アニマルセラピー』に興味・関心はありますか？  
はい 26 68.4% いいえ 12 31.6%
- ⑤ 『アニマルセラピー』を行ってみたいと思いますか？  
はい 16 42.1% いいえ 20 52.6%  
すでに行っている経験があった 2 5.3%
- ⑥ 犬猫ロボットによるセラピーについてどう思いますか？  
効果があると思う 8 21.1% 効果はないと思う 11 28.9% 分からない 19 50%

[『アニマルセラピー』を行ってみたいと答えた方にお聞きします]

- ① どのような動物で行ってみたいですか？(複数回答可)  
犬 15 93.8% 猫 9 56.3% 兎 9 56.3%  
ハムスター 2 12.5% インコ 1 6.3%  
金魚 0 0% モルモット 2 12.5%  
牛 1 6.3% 馬 4 25% イルカ 6 37.5%  
その他 1 6.3%
- ② 『アニマルセラピー』にどんなことを期待されますか？(複数回答可)  
具体的な体調の改善 6 37.5% レクリエーションとしての楽しみ 6 37.5% 精神的な安らぎ 13 81.3% その他 0 0%
- ③ 『アニマルセラピー』に対する不安点は何ですか？(複数回答可)  
不潔 4 25% アレルギー 7 43.8% 病気の感染 7 43.8% 場所の確保 7 43.8%  
費用 6 37.5% 動物の毛の処理 6 37.5%  
その他 4 25%
- ④ どのくらいの頻度で行うのが理想ですか？  
毎日 1 6.3% 週1度くらい 6 37.5%  
月1度くらい 7 43.8% その他 1 6.3%
- ⑤ どのような場所で行うのが理想ですか？(複数回答可)  
ホールのような広めの場所 10 62.5%  
個別の部屋 2 12.5% 屋外 8 50%  
その他1 6.25%
- ⑥ 活動時間の理想はありますか？  
30分以内 0 0% 30分-1時間 12 75%  
1-2時間 3 18.8% 2時間以上 0 0%

[『アニマルセラピー』をしたくないと思われた方にお聞きします]

- ① それはどうしてですか？(複数回答可)  
不潔を感じるから 1 5% アレルギーがあるから 1 5% 病気の感染が心配だから 2 10%  
興味かわからないから 6 30% その他 13 65%
- ② 次の中で療法として興味があるものを選んでください。(複数回答可)  
アロマセラピー 6 30% 音楽療法 12 60%  
園芸療法 6 30% 森林療法 8 40%  
その他 0 0%
- ③ 「ここを改善できれば『アニマルセラピー』をしみたい」ということはありますか？  
はい  
費用の問題がはっきりすれば 1 5% 広い

場所があれば 0 0% 十分な時間があれば 8 40%  
嫌いな動物でなければ 0 0%  
安全だと分かれば 5 25% その他 2 10%  
いいえ 6 30%

[『アニマルセラピー』の経験がある方にお聞きします]

- ① どのような効果が見られましたか？(複数回答可)  
具体的な体調の改善 0 精神的に安定した 1  
共通の話題が増えた 2 特に無かった 0  
その他 0
- ② デメリットは見られましたか？  
デメリットは無かった 1 動物の苦手な人が多かった 0  
体調が悪くなった 0 精神的に不安定になった 0  
その他 1
- ③ 動物好きの人の割合はどのくらいでしたか？  
60-70% 2
- ④ 頻度としてはどのくらいでしたか？  
毎日 0 週1回 0 月1回 1 その他 0
- ⑤ 活動時間はどれくらいでしたか？  
30分以内 2 30分-1時間 0 1-2時間 0  
2時間以上 0
- ⑥ どのような場所で行いましたか？  
施設内の屋内 1 施設外の屋内 0 施設外の屋外 0  
施設外の屋外 2
- ⑦ どのような場所で行うのが理想ですか？  
施設内の屋内 1 施設内の屋外 1 施設外の屋内 0  
施設外の屋外 1
- ⑧ どのような動物を使いましたか？(複数回答可)  
犬 2 猫 0 ハムスター 0 モルモット 0  
鳥 1 亀 1 金魚 0 その他 1 (兎)
- ⑨ どのような動物を使うのが理想ですか？(複数回答可)  
犬 2 猫 1 ハムスター 0 モルモット 0  
鳥 1 亀 0 金魚 1 牛 0 馬 1  
イルカ 0 その他 0
- ⑩ 実際に行ってみて改善したほうがよいところがありましたか？(複数回答可)  
動物の数を増やしたい 0 動物種を増やしたい 0  
時間を延ばしたい 0 その他 1  
特になし 0
- ⑪ これからこの活動を続けていきたいですか？あるいはまた行ってみたいですか？  
はい 2 いいえ 0

自由記述欄での回答

『アニマルセラピー』を行ってみたいと答えた方

- \* どのような動物で行ってみたいですか？  
・対象とする人間の年齢別による  
イヌ, ウサギ, ウマ, イルカ・・・自閉症や登校拒否などの心身的に問題を抱えた青少年に適当
- \* 『アニマルセラピー』に対する不安点は何ですか？  
・体調不良になった時, 全て動物の責任とされる。  
・動物の確保  
・動物の攻撃  
・実施者の技量  
・スタッフの確保  
・活動を行うボランティア, 医師, 獣医師などの知識, 技術不足による逆効果 (人の患者だけでなく使用される動物への負担も含む)
- \* どのような場所で行うのが理想ですか？  
・牧場 (若年または老年者であっても歩様のしっかりしている場合は)
- \* 活動時間の理想はありますか？  
・対象とする人間による

『アニマルセラピー』をしたくないと思われた方

- \* それはどうしてですか？  
・自分が病気療養中のため  
・好む方, 好まれない方を把握してから考え直す必

要はないか

- ・ 時間的に無理だから
  - ・ 責任が重いから
  - ・ 忙しくて時間がない
  - ・ 万が一の事故の発生が心配
  - ・ 時間不足のため
  - ・ 対人関係に自信ないので
  - ・ 時間が取れない
  - ・ 人との接触が苦手だから
  - ・ 年齢（来年は傘寿を迎えるため）
  - ・ 咬傷事故の可能性が皆無とはいえない
  - ・ 動物が100%ケガをさせないとはいえないから
- \* 「ここを改善できれば『アニマルセラピー』をしてみたい」ということはありますか？
- ・ 動物の世話のみですめば（他の人が人と接触してくれれば）
  - ・ 専門的な訓練と組織的な活動が必要
  - ・ 自分の病気が回復したら

『アニマルセラピー』の経験がある方

- \* デメリットは見られましたか？
- ・ 具合が悪くなると責任にされる
- \* 動物好きの人の割合はどのくらいでしたか？
- ・ 全体の70%くらい
  - ・ 全体の60%くらい  
（対象による。老人ホームでの場合ヒポセラピーでは100%）
- \* どんな動物を使いましたか？
- ・ ウサギ      ・ ウマ
- \* 実際に行ってみて改善したほうがよいところがありましたか？
- ・ 恐がる人のために、動物をネットに入れるなどの対策が必要



表3 施設へのアンケートの結果

【全員にお聞きします】

- ① いわゆる『アニマルセラピー』を知っていましたか？  
はい 364 87.3% いいえ 49 11.8%
- ② AAA(動物介在活動)またはAAT(動物介在療法)という言葉を知っていましたか？  
はい 121 29% いいえ 293 70.3%
- ③ 山口県内で『アニマルセラピー』を行っている所をご存知ですか？  
はい 59 14.1% いいえ 353 84.7%
- ④ 『アニマルセラピー』に興味・関心はありますか？  
はい 309 74.1% いいえ 96 23%
- ⑤ 『アニマルセラピー』を行ってみたいと思いますか？  
はい 213 51.1% いいえ 172 41.2%
- ⑥ すでに行っている・行った経験がある 27 6.5%  
施設に『アニマルセラピー』を行える場所がありますか？  
大きなホールがある 110 26.4% 広い庭がある 118 28.3%  
その他 22 5.3% いいえ 191 45.8%
- ⑦ 動物アレルギーを持っておられる方がいますか？  
はい 33 7.9% いいえ 28 6.7%  
分からない 346 83%
- ⑧ 人畜共通感染症について知っていますか？  
はい 223 53.5% いいえ 189 45.3%
- ⑨ 犬猫ロボットによるセラピーについてどう思いますか？  
効果があると思う 108 25.9% 効果はないと思う 53 12.7% 分からない 252 60.4%

【『アニマルセラピー』を行ってみたいと答えた方にお聞きします】

- ① どのような動物で行ってみたいですか？(複数回答可)  
犬 194 90.2% 猫 96 44.7% 兎 84 39.1%  
ハムスター 36 16.7% インコ 25 11.6%  
金魚 30 14% モルモット 18 8.4%  
牛 2 0.9% 馬 17 7.9% イルカ 36 16.7% その他 8 3.7%
- ② 『アニマルセラピー』にどんなことを期待されますか？(複数回答可)  
具体的な体調の改善 17 7.9% レクリエーションとしての楽しみ 121 56% 精神的な安らぎ 197 91.2% その他 62.8%
- ③ 『アニマルセラピー』に対する不安点は何ですか？(複数回答可)  
不潔 59 27.4% アレルギー 123 57.2%  
病気の感染 157 73% 場所の確保 60 27.9%  
費用 83 38.6% 動物の毛などの処理 118 54.9% その他 18 8.4%
- ④ どのくらいの頻度で行うのが理想ですか？  
毎日 17 8% 週1度くらい 68 31.9%  
月1度くらい 103 48.4% その他 30 14.1%
- ⑤ どのような場所で行うのが理想ですか？(複数回答可)  
ホールのような広めの場所 124 57.4%  
個別の部屋 33 15.3% 屋外 119 55.1%  
その他 11 5.1%
- ⑥ 活動時間の理想はありますか？  
30分以内 22 10.5% 30分-1時間 169 80.5%  
1時間-2時間 17 8.1% 2時間以上 5 2.4%

【『アニマルセラピー』をしたくないとお答えした方にお聞きします】

- ① それはどうしてですか？(複数回答可)  
不潔を感じるから 20 12.3% 動物が苦手だから 27 16.7% アレルギーがあるから 31

- 19.1% 病気の感染が心配だから 82 50.6%  
その他 69 42.6%
- ② 次の中で療法として興味があるものを選んでください。(複数回答可)  
アロマセラピー 26 16.9% 音楽療法 110 71.4%  
園芸療法 90 58.4% 森林療法 30 19.5%  
その他 7 4.5%
- ③ 「ここを改善できれば『アニマルセラピー』をしてみたい」ということはありますか？  
・はい  
1. 費用の問題がはっきりすれば 25 15.9%  
2. 広い場所があれば 37 23.6%  
3. 十分な時間があれば 39 24.8%  
4. 嫌いな動物でなければ 13 8.3%  
5. 安全だと分かれば 63 40.1%  
6. その他 8 5.1%  
・いいえ 61 38.9%

【『アニマルセラピー』の経験がある方にお聞きします】

- ① どんな効果が見られましたか？(複数回答可)  
具体的な体調の改善 5 16.7% 精神的に安定した 15 50%  
共通の話題が増えた 15 50% 特になかった 0 0%  
その他 8 26.7%
- ② デメリットはありましたか？  
デメリットは無かった 18 64.3% 動物が苦手な人が多かった 1 3.6%  
体調が悪くなった 0 0% 精神的に不安定になった 1 3.6%
- ③ 動物好きの人の割合はどのくらいでしたか？  
<自由記述欄の結果>参照
- ④ 頻度としてはどのくらいでしたか？  
毎日 5 17.9% 週1回 3 10.7% 月1回 7 25%  
その他 13 48.1%
- ⑤ 活動時間はどれくらいでしたか？  
30分以内 5 20% 30分-1時間 14 56%  
1時間-2時間 4 16% 2時間以上 2 8%
- ⑥ どんな場所で行いましたか？  
施設内の屋内 24 82.8% 施設内の屋外 8 27.6%  
施設外の屋内 2 6.9% 施設外の屋外 1 3.4%  
その他 1 3.4%
- ⑦ どんな場所で行うのが理想ですか？  
施設内の屋内 21 72.4% 施設内の屋外 11 37.9%  
施設外の屋内 1 3.4% 施設外の屋外 1 3.4%  
その他 1 3.4%
- ⑧ どんな動物を使いましたか？(複数回答可)  
犬 26 86.7% 猫 6 20% ハムスター 1 3.3%  
モルモット 1 3.3% 鳥 3 10% 亀 1 3.3%  
金魚 6 20% その他 2 6.7%
- ⑨ どんな動物を使うのが理想ですか？(複数回答可)  
犬 25 86.2% 猫 11 37.9% ハムスター 4 13.8%  
モルモット 3 10.3% 鳥 7 24.1% 亀 2 6.9%  
金魚 5 17.2% 牛 0 0% 馬 0 0%  
イルカ 0 0% その他 3 10.3%
- ⑩ 実際に行ってみて改善したほうがよいところがありましたか？(複数回答可)  
動物の数を増やしたい 3 10.7% 動物種を増やしたい 7 25%  
時間を延ばしたい 1 3.6% その他 8 28.6%  
特になし 12 42.9%
- ⑪ これからこの活動を続けていきたいですか？あるいはまた行いたいですか？  
はい 24 85.7% いいえ 4 14.3%

自由記述欄での回答

- 『アニマルセラピー』を行ってみたいと思いますか？  
・イヌ、ネコ、小鳥類は思わしくない、メダカ、熱帯魚、金魚などがよい。
- 施設に『アニマルセラピー』を行える場所がありますか？  
・作業所で犬と猫を飼っている

- ・ 娯楽室はあるが食堂と兼ねているので無理
- ・ 在宅に希望者があれば
- ・ どれくらいの広さが必要なのかわからない
- ・ 広い駐車場がある
- ・ 場所があっても園長の了解が得られるかどうか？
- ・ デイサービスセンターまたはグループホーム内
- ・ 空き地 (2)
- ・ 広場
- ・ 狭い庭
- ・ 食堂
- \* 動物アレルギーを持っておられる方がいますか？
 

・ 全体の1%くらい	2
・ 4%	1
・ 5%	1
・ 10%	3
・ 20%	2
・ その他	1-2人程度

## 『アニマルセラピー』を行ってみたいと答えた方

## \* どのような動物で行ってみたいですか？

- ・ 仔犬
- ・ ミニホース
- ・ リス
- ・ ゴマフアザラシ
- ・ メダカ
- ・ 熱帯魚 (4)

## \* 『アニマルセラピー』にどんなことを期待されますか？

- ・ 「なでさすりたい・・・」との思いで、例えば拘縮頭肘にある手を動かそうとするなど、ROH訓練が自然に行えるなど (?)
- ・ 人間らしい情感の回復、特に痴呆症に対して
- ・ 表情が豊かになる
- ・ 感情を表現しようとする
- ・ 気力の充実
- ・ 動物とコミュニケーションをとってみたい

## \* 『アニマルセラピー』に対する不安点は何ですか？

- ・ 排泄物の処理
- ・ 金魚程度でよい、動物はあまり感心しない
- ・ イヌが咬む、ネコが引っかく、ハムスターが咬む
- ・ 動物嫌いの人はどうするか
- ・ 咬んだり、つめを立てたり
- ・ 保健所の許可
- ・ 動物の性格が急変した場合
- ・ イヌが噛み付いた場合
- ・ 職員の手間
- ・ 事故
- ・ 動物 (イヌ、ネコ) を恐がる利用者もいる (パニックになる)
- ・ イヌであれば咬傷、転倒
- ・ 動物の不意な行動による事故
- ・ 咬まれたり、引っかかれたりした時の対応
- ・ 動物が病気になったとき

## \* どのくらいの頻度で行うのが理想ですか？

- ・ 2日に1回
- ・ 週に2回
- ・ 月に2回 (3)
- ・ 2ヶ月に1回 (2)
- ・ 2~3ヶ月に1回
- ・ 3ヶ月に1回
- ・ 年に3回
- ・ 年に2~3回
- ・ 年に2回 (4)
- ・ 年に1回
- ・ 対象者に応じて
- ・ 利用者が希望する時に
- ・ 対象となる動物による
- ・ 不定期
- ・ わからない (4)

## \* どのような場所で行うのが理想ですか？

- ・ 施設内
- ・ 在宅 (2)
- ・ 海
- ・ 一家族としてどこでも
- ・ 病状、状態に合わせて
- ・ 中庭
- ・ 動物の種類による
- ・ 工夫すれば

## \* 活動時間の理想はありますか？

- ・ 活動というよりは、見て、精神的な安らぎを求めること
- ・ 個人の状況による

## 『アニマルセラピー』をしたくないと思われた方

## \* それはどうしてですか？

## 場所

- ・ 場所がない (4)
- ・ 保育所と同じ建物であり1つのフロアしかなく、嫌いな人たちの行く場所がない
- ・ 場所的に向かない (市役所の中にあるため)
- ・ 広い場所がないのに、嫌いな人がいる
- ・ 入所施設がないため職員の手間がかかりすぎる

## 時間

- ・ 時間がない (6)
- ・ 今現在行っていることで時間の制限超過にて
- ・ 今まで行ったことがないので導入に伴う時間が取りにくい

## 人手

- ・ 面倒が見られるマンパワー
- ・ 入所施設がないため職員の手間がかかりすぎる
- ・ 運営体制等の関係上、人的にも行う余裕が現段階ではないため
- ・ 世話が大変そうだから
- ・ 動物の最期まで責任をもてるかどうか判らないから

## ケア面での不安

- ・ ケア面での不安
- 衛生・安全
- ・ 病院だから
- ・ 毛などが落ちる
- ・ 事故が心配
- ・ 授産施設であり、製品を作って販売しており、製品に動物の毛が混入することを考える
- ・ 安全面 (2)

## 知識不足

- ・ アニマルセラピーの効果、内容がよくわからない (5)
- ・ 費用の問題 (3)

## 利用者

- ・ 家で動物を飼っている人が多いため
- ・ 利用者が望むかどうか不安である (2)
- ・ 田舎なので動物にそれほど興味がある利用者が少ないようなので
- ・ 動物の苦手な利用者があるから (3)
- ・ 利用者の反応がわからないから

## 施設内容

- ・ 在宅の仕事として考えてないため
- ・ そのような患者が今のところいない (3)
- ・ 必要がないから (5)
- ・ 公民館などを借りて実施すればできないことはない
- ・ 行うことを現在考えていない
- ・ 施設内容 (5)
- ・ デイサービスより特養が向いているような気がする
- ・ できればデイサービス、デイケア、特養等で行ってほしいと考える

## その他

- ・ 定期的にはできないから

- ・動物を飼っていないので判らない
- ・施設では動物を飼えない
- ・現システム全体が想定していないので
- ・関心なし

\*「ここを改善できれば『アニマルセラピー』をしてみたい」ということはありますか？

- ・県、保健所が何も言わないのだろうか？
- ・どのように活動し、どういう効果が得られているのかをまず知った上で考えたい
- ・動物の世話が難しいため
- ・そのような患者が今のところいないため当分考えられない
- ・グループホームを造設した場合
- ・当所は精神障害ではない
- ・本当に必要と思った人がいたら考える
- ・動物ではなく金魚で楽しんでもらっている
- ・職員の手間
- ・実行するにあたり、必要な知識等の習得システムが確立されていれば
- ・通所施設であり、家庭で好きな動物を飼っている
- ・製品を作るのに時間的な余裕がない
- ・かつてノラ猫を獣医さんに連れて行き、安心な状態にして飼ったことがあるが、夜の管理ができずいなくなった

『アニマルセラピー』の経験がある方

\*どんな効果が見られましたか？

- ・痴呆症の方が、自分から犬を飼いたい、と家族にお願いしてかわいがっている
- ・寝っぱなしの人がずっと犬と遊ぶ（精神的に安定した）
- ・徘徊のある人が、膝に抱き、背をさすることにより落ち着いてきた（精神的に安定した）
- ・失語症の人がものが言えるようになった
- ・思いやりができた
- ・笑顔が多く見られるようになり、精神的にも安定
- ・平素ない笑顔と会話が出来た
- ・評価してないのでなんともいえない
- ・年1回しか行ってないためわからない

\*デメリットはありましたか？

- ・苦手な人が数人いた
- ・衛生面が気になった
- ・犬のなき声に過敏になり「うるさい」と大声で言い続けた為、周囲に雰囲気が悪くなった
- ・わからない

\*動物好きの人の割合はどのくらいでしたか？

全体の	10%	1
	20%	1
	30%	1
	40-50%	1
	50%	4
	70%	1
	80%	6
	90%	4

\*頻度としてはどのくらいでしたか？

- ・月に2回
- ・年に1回（3）
- ・金魚、ニワトリを飼っている
- ・中庭で犬を2匹飼っているので、利用者の都合に合わせて中庭で触れ合ったり、室内から眺めたりしている

\*どんな動物を使いましたか？

- ・アイガモ
- ・ウサギ
- ・ミニウサギ

\*どんな動物を使うのが理想ですか？

- ・ウサギ
- ・わからない

\*実際に行って見てみて改善したほうがよいところはありませんか？

- ・大型犬より中・小型犬がよい
- ・現状ではしないほうが良いと思っている